

配置図



不言実行館 ACTIVE PLAZA

フロアガイド

6F

アロハテーブル
(カフェテリア)

5F
CREATIVE LAB

キャリア支援課

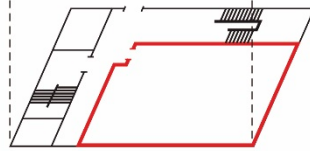
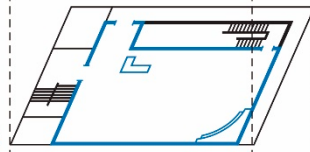
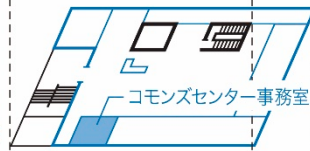
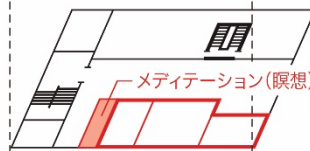
4F

学生支援課
教務支援課

3F
LEARNING COMMONS

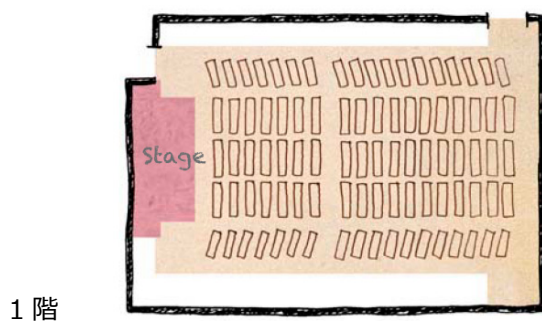
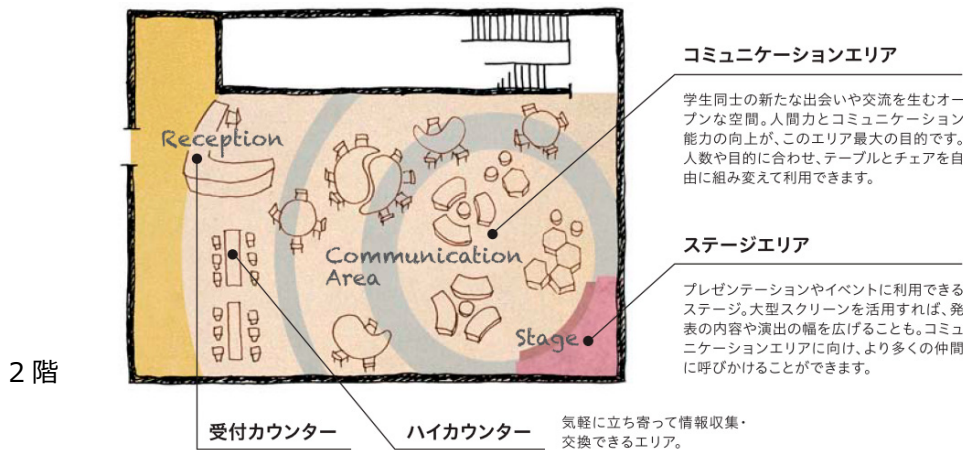
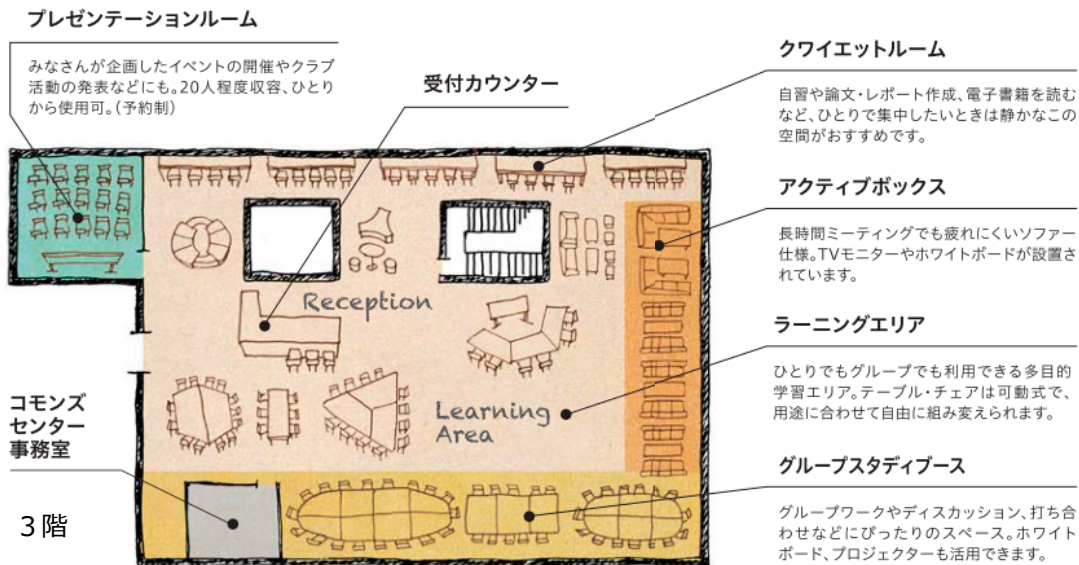
2F
STUDENT COMMONS

1F
ACTIVE HALL



COMMONS CENTER

平面図



整備概要

施設名称	不言実行館 ACTIVE PLAZA		
利用対象	全学部 学生 10,810名、教員 528名		
設置年度(工期)	平成27年度(平成25年11月～平成27年4月)		
整備手法	新築	構造	鉄筋コンクリート造
階数	1～3階(不言実行館は6階建)		
のべ床面積	5,613.08㎡		
整備費用	(ICT関連のみ) 26,000,000円		
年間の運営・管理費用	利用者サポート: 約700万円(サポートスタッフ費用含) 運用管理: 約300万円(清掃費別)		
設計	株式会社 第一工房		
施工	清水建設株式会社		

整備内容

・整備のポイント

「学生が自ら学び体験し、学部・学科を超えて交流し、人間力を高める教育空間の構築」をコンセプトとして掲げ、「グループや個人の学修が自由にできる場を提供するためのフロア」を整備して、利便性の向上と活性化を図った。

配置計画

7 学部の学生がいつでも気軽に時間にとらわれず集まりやすい環境作りに努めた。大学キャンパスの中央部に位置し、2 階は他の講義室や各学部掲示板があるキャンパスプラザと接続させ、学生が行き来しやすく、利便性を高める設計。

平面計画

2 階チューデント・commons

3 階ラーニング・commons

什器整備の特徴

什器は、学生自らが自由に動かしやすく、追加整備にも柔軟に対応できるように、空間に対して余裕をもたせて配置。

各フロアに複合機（ネットワーク接続）1 台、70 型電子黒板（BIGPAD）を 2 台設置。貸出用機器等は、ノートパソコン 40 台、ポータブルプロジェクタ 2 台、レーザーポインター 5 本、ポータブルブルーレイディスク、DVD プレーヤー 3 台、ワイヤレスヘッドホン 5 台。

2 階受付外側にサインージシステム、ステージエリアに 150 型電動巻上式スクリーン・プロジェクタ配備。コミュニケーションエリアに 80 型電動巻上式スクリーン・プロジェクタ 3 組配備。

3 階グループスタディース（3ヶ所設置）に 4 台の電子黒板機能付のプロジェクタを配備。プレゼンテーションルームにも同様の機器を設置。アクティブボックスには計 6 台の TV モニタを設置し、グループで利用しやすい環境を整えている。

・運営・管理

利用者サポート

学生教育推進機構の commons センター事務室が担当。

インターンシップの位置づけで、学生が「commons サポーター」として活動。

学修サポートのための 2 名の教員が commons コンシェルジュとして常駐。

また、不言実行館運営委員会により、運用方針を策定。

運用管理

1 階～ 3 階は commons センター事務室が、commons サポーターと協力してスペース利用管理、機材管理を行っている。

4 階～ 6 階についてはそれぞれの学生支援部署が管理。

清掃は業者へ委託。

計画・設計プロセス

・整備の背景

平成 26 年、開学 50 周年の記念すべき年を迎えるにあたり、建学の精神である「不言実行 あてになる人間」を具現化できる学生支援センター棟の建設の構想が平成 24 年春に出された。学生の自主的に活動する拠点となるスペースを考え、学生同士のコミュニティ形成の場となるように学生支援センター棟構想プロジェクトで検討された。その結果をキャンパス整備委員会で議論し、開学 50 周年記念事業の一環として建設することとなった。

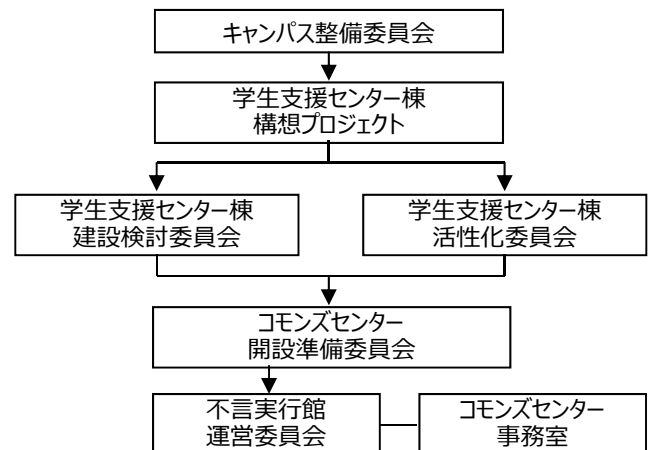
また、過去 10 年程の間に学部学科増に伴い、約 2 倍の学生数の増加があった。従来の学生支援部署のスペースが狭くなり、窓口サービスの低下ができたことへの対処が必要となったことも整備のきっかけとなっている。

・整備の目的

1. 学生が集まりやすい機能を持たせるように設計する。
2. 学生同士のコミュニティ形成の場とする。
3. 学生が自ら学び、自主的に活動する拠点とする。

「学生が自ら学び体験し、学部学科を超えて交流し、人間力を高める教育空間」をコンセプトとして、全館の構想が計られ、各階の設計、ゾーニングがなされた。

・計画・設計の推進体制



・構想から工事までのプロセス

	構想	計画・設計	工事
6年前		15号館建築計画素案検討	
4年前		旧15号館建築計画打合せ開始	
3年前	平成 24 年 6 月 学生支援棟構想プロジェクト発足	基本設計に向けて各課打合せ	
2年前	平成 25 年 6 月 学生支援棟建設検討委員会発足 12 月 学生支援センター棟活性化委員会発足	基本設計、実施	平成 25 年 5 月～9 月 既設建物解体 平成 25 年 11 月 18 日 着工
1年前	平成 27 年 1 月 commonsセンター開設準備委員会発足	6階カフェテリア設計委託	
完成	平成 27 年 4 月 不言実行館運営委員会発足		平成 27 年 4 月 10 日 竣工

整備後の評価と今後の展望

・利用状況

主に自主学修で利用している。又、グループでのミーティング、学修にもグループスタディースを活用している。2~4 名位の人数の学修においては、アクティブボックスの利用が多い。

発表や発表練習のためのプレゼンテーションルームの使用頻度も多くなってきている。クラブや課外活動団体のミーティングや学科の勉強会などに利用している。

1人で静かに学修できる3階のクワイエットルームも利用頻度が高い。

新設のため、以前と比較するものが無いが、学生の利用状況を見ていると、想像していた以上に使用方法を理解して利用している。利用者数も徐々に増えている。

また、登校後、コモンズセンターを中心として授業や課外活動へ繰り出し、また自修のために戻るような、活動拠点としての利用もみられ始めている。

イベントの企画・運営からコモンズでのトラブル対応まで「コモンズサポーター」が行っている。職員はサポートに徹することでサポーターの成長を促している。

企画実績

実施日	実施企画	
2015.7.22	コモンズサポーター企画術を学ぶワークショップ	コモンズサポーターからの要望によりコモンズコンシェルジュ主導で企画を立案するための説明会が行われた。
2015.8.7 ~8.9	オープンキャンパス企画課外活動発表会	学内より発表団体を募り、オープンキャンパス期間中に高校生に向け活動紹介を行った。
2015.10.5 ~10.8	文献検索データベース講習会 ※図書館主催	学生に対し、効率的に文献が検索できるようになる講習会を4回開催
2015.12.6	社会人基礎力育成グランプリへの参加	経済産業省主催。活動を通じどれだけ社会人基礎力が伸びたかをプレゼンし、その成長度合いを競うグランプリであり、サポーター5名がエントリー、名古屋産業大学にて発表を行った。
2015.12.7 ~12.11	国際フォトコンテスト ※国際センターとの共催	コモンズセンター内に国際交流に関する写真募集の掲示を行い、投稿された写真を1階へ掲示し投票箱を設け選考を行った。結果発表、授賞式はコモンズセンター2階ステージエリアで行った。
	施設紹介映像の作成	コモンズサポーターが知識や技術を集結しあい、コモンズセンターの施設紹介映像を作成。サポーター2名が主となり製作。施設見学者にも好評。

進行中の企画

頻度	実施企画	
月1回ほど	OB・OG トークライブ	卒業後年数の浅い20代30代のOB・OGを大学に招き、2階ステージエリアでトークライブという形で自身の体験について語ってもらう。 ※チャレンジサイトをサポーター主導で開催
月2回ほど	コモンズ・アカデミア	コモンズセンター長より学生へ様々なテーマを投げかけ、それに関して話し合いを行う場。
随時	コモンズ・カフェ	様々な分野を学んでいる方々と会議よりもラフに、飲み場よりもまじめに話し合い、新しい出会い、交流、発見をする。
随時	ツイッターでの情報発信	コモンズサポーター企画、SNSを利用し、PRや企画の開催案内、活動報告を行うことでコモンズセンターの周知をはかる。
作成中	グルメリポート	コモンズサポーター企画、大学から徒歩、自転車圏内の飲食店を取材し、学生へ向けた情報誌を作成する。
随時	本棚の活用方法検討グループ	コモンズサポーター企画、センター3階の本棚活用方法を検討、本の選書や掲示のデザインなども作成
随時	コモンズセンター緑化計画	コモンズサポーター企画、施設環境向上の為、センター内の緑化を計画している。
月1回	リーダーミーティング	5班に分かれているサポーターの各リーダーがコモンズセンター運営の問題点や改善点を話し合う。また、全体ミーティングの議題も検討する。
月1回	コモンズサポーター全体ミーティング	コモンズサポーター全員の意識向上と情報共有のために開催。リーダー主導で毎月開催
随時	クラブ NEWS	課外活動の成果や大会予定などをとりあげ、コモンズセンター2階のサイネージへ掲示することで課外活動の活性化を狙う。

・整備後の課題

- ①補助椅子等を置くための倉庫やスペースの確保。
- ②運営スタッフ（コモンズサポーター）が作業、ミーティングなどができる控室が必要となってきた。
- ③掲示板が不足している面があり、その対処としてホワイトボードの活用、移動式掲示板の設置で対応。

・今後の展望

個人の活用においてはICT機器の使用を更に有効に使えればと思う程度ぐらいで期待通りであるが、少人数から多人数に及ぶグループ単位の学修の活性化、企画の提案と実施が頻繁に行われるようになれば、本来の人間力向上の目標達成への1歩となると思われる。

それこそが本学の建学の精神である「不言実行、あてになる人間」育成の課題克服につながっていくと思われる。